

第5回日立市コミュニティ活動の在り方検討委員会について（報告）

1 日 時 令和2年8月28日（金） 午前9時30分から正午まで

2 場 所 日立市役所 503・504号会議室

3 出席者

(1) 委員 20名（欠席：橋本委員）

4 内容

(1) 委員長挨拶

- ・前回からグループワークをしてもらっているが、前回グループワークをしてみて、面白かったと認識している。委員の皆さんそれぞれ違う立場から参加しているので、立場が違えば当然それぞれの情報・考え方も違う。その違いをグループワークの中で出し合って共有することを通じて、違いから何か気づき生まれる、さらにそういった違いから新しいアイデア生まれる、そういったことを実感した。
- ・前はコミュニティの組織や、様々な組織との関係について議論してもらったが、今回はコミュニティの業務や活動内容について議論してもらおう。少子高齢化や人口減少という中で、今までの業務、今までの活動内容のままでは中々難しい。
- ・本日の資料にも用意されているが、現在行われている業務のうち、どれが必須なのか、コミュニティがやらなければいけない仕事というのはそもそもどれなのか。それ以外で、人口規模やコミュニティの特性に合わせて選択できるものはどれなのかという観点や、現在行われている業務のうち確実に残した方がいいという業務はどれなのか。人口減少などが進んでいる中で、無くした方がいいだろうと思う業務はどれなのか。逆に高齢化や人口減少に伴い、新たに増やさなければいけない業務もあるかもしれない。そういったことについてそれぞれ違う立場から意見を出してもらいたい。その考え方を共有し、気づき生まれ、新しいアイデアを出してもらいたい。

(2) 第4回日立市コミュニティ活動の在り方検討委員会の議事要旨(案)の確認について
第4回の議事要旨（案）について、原案のとおり承認され、日立市ホームページに公開することを確認した。

(3) グループワーク「市民が求めるコミュニティ活動について」

ア グループワークに入る前に事務局から資料2、資料3、資料4についての説明を行った。

○委員

- ・資料3で愛知県を選んだ理由はなぜなのか。

○事務局

- ・愛知県でまとめた資料が分かりやすく、それぞれについてもコミュニティが行

う役割が先進的に工夫されている内容だったため参考にした。

イ グループワーク

進行役について、Aグループは西村委員、Bグループは砂金委員長、Cグループは石川副委員長が務めることとなった。

(4) 意見交換

グループワークにおける各グループの話し合いの内容について、進行役の3人から説明があった。

○西村委員

- ・コミュニティにどんな活動があれば、みんなが豊かで楽しく暮らせるのかということから議論した。資料4で示されているように、多くのことをそれぞれのコミュニティが行っていることが分かる。本来はコミュニティがこういったものを目指していくのかというのがしっかり決まっているといい。
- ・例えば、地域福祉活動で言うと民生委員が見守りしたり、災害のときには民生委員に負担がいったりということになっているが、そうではなく地域全体のこととして、地域福祉というみんなが豊かに安心して暮らせる街を作るために、コミュニティとしてどういう組織を作っておくのかということをもう少し細かく組み立てる必要があるのではないか。モデル的に大きくこれを目指そうというものを作っておく必要がある。
- ・現在は、災害の時には、民生委員、地域、自治会・町内会、子どもたちのためには小学校やPTAが動くようになっているが、平日頃からそういう活動を実践しておくことが大切で、地域福祉の活動は非常時に役立つ仕組みにしておくことが必要である。地域福祉活動も、自主防災活動にも連動させることが必要である。自治会・町内会とも連携が当然必要である。
- ・10年先、20年先を見た時に、自治会・町内会がしっかりしているところは今のままだでもいいかもしれないが、既にまともになくなってきてしまっているところもあるので、意図的にエリアを決めて、お世話してくれる人を用意し、有償でやってもらうようなことも将来的には必要になってくるかもしれない。
- ・今のままでは自治会・町内会にいろいろなことを求めるのは無理になって来ている。いろいろなコミュニティ活動の中でそこを重要視するとすれば、新しい組織を作っておく必要があるかもしれない。
- ・生涯学習について考えてみたときに、お祭りなどもやっているが、そこまでコミュニティがやりきれぬのかということも疑問符がつく。若い人がコミュニティの中で楽しめる方法はないのか、コミュニティで活動してもらおうとしてもどうすればいいのかというところで、同級生のつながりで30代などは動くこともあるので、自由にやってもらえるような活動もコミュニティの中にあるといい。
- ・いずれにしてもコミュニティ側にコーディネーター役が必要となってくる。もう

少し顔が見えるコミュニティを目指したい。

○砂金委員長

- ・大きく分けると課題の話と具体策の話になった。今のコミュニティの活動において、何が課題かという、スタッフや役員の高齢化があげられる。また、日立には23単会あるが、地域によってかなり活動や内容などに差があるということもあげられた。
- ・コミュニティの活動と特に20代、30代、40代の市民のニーズとの間にギャップがあるのではないか。コミュニティに今まで関わっていない方々は、コミュニティと交流センターの区別がそもそも認識されていないということもある。そして、コミュニティの活動の情報が今言ったような若い世代にはどうも届いていないようであり、コミュニティが遠い存在になってしまっている。
- ・以上のような課題に対して、どのようなことをすればいいのかという具体策について、例えば高齢化を迎えて地域によって差があるのであるならば、各コミュニティの活動を地域に合わせて取捨選択する方がいい、すべての地域が同じ活動をするのではなくて、地域ごとに活動内容に差があってもいいのではないか。
- ・コミュニティの広報紙と交流センターの広報紙が別個に発行されているが、統一を図っていいのではないか。
- ・若い方に向けては、そもそも今働き方改革等で働き方が変わってきて、かつては会社モータリ社員みたいな形ではあったが、今は企業の方が地域活動に社員が参加することを認めるような風潮が広まりつつある。日立市の職員も、1年目・2年目の職員がコミュニティに行って研修をしているということだが、それぞれの地区、地域にある企業とコミュニティが連携をして、地域の中にある企業の新人研修の一環として、地域コミュニティの活動に参加してもらおう。日立市役所が各コミュニティに対して新入職員を派遣しているのと同じような形を日立市内の民間の企業でも出来ないか。
- ・また、学校や子どもたちを巻き込むことが大事であり、若い世代、親世代は学校には様々な形で関わっている。学校の消毒作業などは、予想以上に人が集まって抽選になったという話も聞いている。いかにして、各地域の学校、小学校、中学校はもちろん、大学なども含めて、学校にうまく地域活動に関わってもらえるような仕組みを作るかが必要である。若い方に関わってもらおう一つの事例として、おもちゃライブラリーの当番として、PTAや民生委員に参加してもらって、そこで関わってもらったことをきっかけにするということをしている地区もあるようである。
- ・また、地域プライドの醸成という話もあった。地域に住んでいる方、特に子どもたちに、その地域に住んでいることに誇りを持ってもらおう。そのために、歴史教育であったり、ラジオ体操であったり、コミュニティや学校教育を通じて、いか

にして地域プライドを醸成するかということも長い目で見れば、地域の活動に重要なのではないか。

- ・さらには、活動に対して抵抗感のある方、特に思い込みで面倒くさそうという方もいるので、そういう方々が活動に参加するためには優遇措置を設ける必要もあるのではないか。例えば有償ボランティアとか、活動に応じてポイントが溜まっていて、地域の商店で使えるようなポイント制を検討してもいいのではないか。
- ・先程、活動内容とニーズにズレがある、つまりコミュニティが行っている活動内容と市民のニーズにズレがあるという意見が出たが、その対応策の一つとして、アンケートを行うという意見もあった。以前、コミュニティ推進協議会主催の講演会で雲南省の課長をお呼びしてお話いただいた中で、アンケートを実施したという話があった。一つ一つの活動について必要か、満足しているかという、重要度と満足度の二つの指標で調査をしていた。そうすることで、重要だけでも満足度は低いなどというように、重要度と満足度で4つにグループ分けされるので、活動の取捨選択の参考資料にしてはどうかというものであった。

○石川副委員長

- ・今のコミュニティ活動について、今後どのように継続あるいは止めていくのかということについて話し合った。現状の活動について、例えば生活環境を守るまちの美化運動とか、団体で誰かがやっていくのではないかなというような事業についてはやらされ感が強い。地域福祉活動や生涯学習というような活動は、市民には知れ渡って参加していただいていると思うが、この辺りは個人が主体で行っていて、参加者もそれなりに集まっているが、それをまとめるボランティアについては非常に数が少なく厳しい環境になってきている。
- ・住みよい街にするために、地域から求められる活動をするためには、住民の意見を聞く場を作らなければならない。事業をやるのはあくまでも、住民創意に基づいてやるべきである。事業によっては、NPOはじめ、各種団体をお願いする選別も必要なのではないか。
- ・交流センターの役割とコミュニティの役割ということで、あまり区分が市民に理解されていないが、交流センターが市民相談の役割を果たしている部分も多くなっている。市役所の用務を一部交流センターで出来るようにサービスを拡げ、コミュニティと交流センターが近づいたような内容にしてもいいかもしれない。
- ・コミュニティ活動については、若い人たちに理解されていないというような意見が何度も出てくるが、コミュニティ活動について、どういうことをやっているのか市民にPRされていないという側面がまだまだ強い。行政との役割分担については、全市民への周知等の必要なことについては、有償ボランティアなどを採用してみてもいいのではないか。

- ・反対に今の役割分担で、コミュニティがやっている事項をコミュニティがやらないとした場合にどういう状況になるのかという意見もあった。

○委員長

- ・各グループから報告があったが、今の報告を聞いて、あるいはグループでの話し合いに参加して何か意見はあるか。

○委員

- ・市とコミュニティとの関係として、学区で広報紙を配布していて、広報部という名前で活動しているが、ここについては市からの支援金がない。それを見直してもらえないか。
- ・コミュニティの活動の拠点は交流センターになっているが、高齢化が進むと交流センターに来る方の足がないので、コミュニティバスのものを市で考えてもらえないか。

○委員長

- ・具体的な要望として、広報紙を配るのに経済的な支援が必要ということと、交流センターに行くにしても足がない、特に高齢化が進む中で、高齢ドライバーの免許返納なども出てきているので、いかにして交流センターに集まるための足を確保するのか、それに対して市として何らかのサポートがあったらという意見であった。

○委員

- ・今後交流センターの役割として、市民相談の窓口としての役割がこれからさらに大きくなっていくのではないかと思う。そうなったときに市民活動としての重要なポイントになっていくのではないかと思う。

○委員長

- ・市民相談の場として、交流センターの存在がますます重要性を増すのではないかという意見であった。

○委員

- ・資料4の地域活動の中で、ふれあい配食サービスが例示としてあるが、こちらは平成5年から昨年までは地区を介してのお弁当の配達をお願いしていたが、民間業者のお弁当を作っている工場が閉鎖になったことに伴って、違う民間のお弁当業者とNPO法人にお弁当作りと配達をお願いすることになった。つまり、地域を介さない事業になっているので、取捨選択ではないが、すでに地域活動から抜けているものもあるということを確認いただきたい。

○委員長

- ・全ての地域でそうなっているということか。

○委員

- ・そうである。厳密に言うと、中里地区だけは民間業者の手が届かないということ

で、ある推進員にお弁当をお願いしていたが、今現在は利用者0人になってしまった。そのため、基本的にはコミュニティを介さない事業展開に変わったと理解してほしい。

○委員長

- ・資料の地域福祉活動に入っているふれあい配食サービスは、現在は民間主体になっていて、コミュニティからは離れているということである。先程、地域ごとに活動の取捨選択があってもという話をしたが、その中で活動としてはとても大事だが、地域活動としては難しくなった場合に、一つの代替手段として民間の活用ということもいろいろな活動について当然あり得る。

○委員

- ・市役所からの依頼事項、資料2のコミュニティと行政の役割分担というところで、これだけのコミュニティ及び交流センターがあり、市役所や支所に行くには足がない、大変だという意見をよく聞くので、1週間に1度でもいいので市役所の方から出張サービスのような方策が出来ないか。
- ・その時に市役所の職員と一緒に働いてくれる、ボランティアとして協力してくれる人がいれば、有償として手伝ってもらってもいいのではないか。地域から市の方に行くのではなくて、市役所の方から出てきてくれるサービスがあるといい。
- ・高齢者になったときに買い物などに行くにしても、免許返納などで足がどんどん少なくなっていく。昨年10月から今年の3月にかけて市の援助をもらって、半年間乗り合いタクシーの実証実験を行った。
- ・市民からは喜ばれ、継続して欲しいという意見もあったが、市からは予算の関係上一旦終了し、現在は来年度に向けて継続的な事業として行っていけるのか申請しているところである。
- ・高齢者へのいろいろなサービスの中で、高齢者は動きが少なくなってしまうので、市の方から出てきてくれることと高齢者に対しての交通の確保ということをセットで出来るといい。

○委員長

- ・今話があったのは、コミュニティと行政との役割分担についてだが、一つは交流センターに対して、市の業務の出張サービスのようなものがあるといいというもの、もう一つは逆に地域の人たちが市役所や支所に行くときの足の確保について検討してくれないかということだった。
- ・中々、市としては悩ましいところかと思う。昨日小美玉市の行革の会議に出席していたが、そこで委員の方から、小美玉市内の循環バスの利用者が少ないという意見が出ていたが、そもそも利用者がたくさんいて採算が取れるのであれば、民間のバス会社がバスを走らせる。そうではないから市が行っているのだから、元々儲かるはずはない。この辺りはどの自治体も苦労しているところだと思う。

○委員

- ・資料4の中のコミュニティを主体とした活動の中でも、すでにいらぬかというようなことが、先程の委員からもあったように出てきているので、一回見直す必要がある。
- ・例えば違反広告物追放の取組などは、今どこを見てもそんなものはないのいつまでこんなもの引っ張っているのかと感ずる。いらなくなったものを思い切って捨てるかいないと、今の体制では出来ないこと、コミュニティ組織がもう少し充実していかぬ限りは難しくなっているものがいっぱいある。
- ・この事業は何のために行っていて、どこの部分を担っているのかということをもう少し分かるように組織、仕組みを作っておく必要がある。
- ・コミュニティ活動と交流センター運営委員会の日々の活動の違いについて、交流センターは指定管理として有償で行っていて、コミュニティはボランティアとして無償で行っているという部分で、業務として少し不思議さがある。併任していくことなどを明確にしていくべきかと思っている。そうすることによって、先程あったように「相談できるコミュニティ」の役割も明確に出来ると思うので、頼りになるコミュニティになっていくと思う。

○副委員長

- ・今の委員の意見に付随するが、交流センターの業務は指定管理として、協力員が規定されているが、実質はコミュニティの相談役みたいなことをどこの交流センターでも協力員が行っている。そこを明確にしてほしいということだったと思うが、そこに加えて、先程の委員が言ったように市役所の業務も交流センターの中に組み入れて、サービス機能をもっと認識してもらった方がいいのではないか。

○委員長

- ・各グループで共通して出てくる論点もいくつもあった。有償ボランティアなどもそうだが、そういったところが今後この委員会の中で、3月までに集中して議論していくべきところとして見えてきた。
- ・前は組織について話をして、今回は活動について話をして、次回はいかにして若い方や参加していない方々に参加していただくかというような話をするというふうに分けてはあるが、やっぱりこの3つは切り離すのは難しいなと実感している。今回も次回に関わってくる話もたくさん出てきていて、先程の交流センターの運営委員長は報酬が出ているけれども、支部長は無報酬であり、そこで少しぎくしゃくするというような話も出ていた。
- ・そのあたりを分けるのは難しいなと感じているので、一応3つに分けてはいるが、10月に入ってくると統一して議論することになるので、今3つの角度から議論していることを全体の議論に活かしていきたい。
- ・アンケートが必要かとも思っている。今のコミュニティを主体とした活動の中で

も止めてもいいというものがいくつかあるという話もあったが、やはりそういった取捨選択をするためにも今行われている活動についてのアンケートを実施して、何が重要で重要じゃないのか、何の満足度が高いのか低いのかということは、一回客観的に把握すべきかと思う。一方でコミュニティが大事だと思っていること、市民が大事だと思っていることと、行政が大事だと思っていることには、イコールの部分とちょっと違う部分があるのではないかと思う。

- ・行政としてコミュニティをどう考えていくのか、どうなって欲しいのかということも調査してほしい。両方の視点があった方が議論しやすいような印象を受けた。

(5) その他

ア 次回の日程等について

次回検討委員会は、9月25日（金）午前9時30分から、日立市役所503・504号会議室で行うことが確認された。

イ 単会会長へのヒアリングについて

9月30日にコミュニティ推進協議会の会長会議が行われ、その中で、議題として各単会会長との意見交換会を開催する予定となっていること、詳細を改めて通知することが確認された。

以上